

平成27年度国立大雪青少年交流の家
第3回施設業務運営委員会広報部会議事要旨（案）

日時 平成28年3月2日(水) 14:00～
場所 大雪青少年交流の家 2階 第二研修室

運営委員出席者：山中委員，竹村委員，十川委員，村上委員

計 4名

オブザーバー：笠井委員

計 1名

欠席者：尾崎委員，松倉委員

計 2名

国立大雪青少年交流の家出席者：安藤事業推進室主任，天崎事業推進室員，石川事業推進室員，赤坂事業推進室員

計 4名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●事務局

会議時間，資料確認，欠席委員の報告。

○部会長

部会長による議事進行

○部会長

本日の議題は，「平成27年度国立大雪青少年交流の家教育事業・研修支援事業等自己点検・評価表について」「平成28年度広報計画について」の2点となる。まず，議題に入る前に事務局から，平成27年度広報部会計画及び目標数値と現状について説明をいただきたい。

●事務局

【資料2】 利用促進方針，広報活動の方針，広報活動の充実に関する成果目標について確認。

【資料3】について説明

9月の宿泊利用者数が4,178人であった。これは，目標数値から1,714人の減少となる。大規模学校のキャンセルや北海道の生徒数の減少が理由である。また，1月では4,546人であり1,901人の減少となった。これは，昨年度近隣で自衛隊のスキー大会が行われ利用があったが，本大会は隔年開催であるため今年度は利用がないことが要因である。さらに，今年度宿泊利用者数を見ても3,500人の減少であった。

日帰りについては，増加しているが，思ったほど宿泊へつなげることが出来なかった。

○部会長

続けて，「議題1平成27年度国立大雪青少年交流の家教育事業・研修支援事業等自己点検・評価表について」事務局から説明をしていただきたい。

●事務局

【資料4-1，4-2】について説明。

評価項目のS，A，B，Cについては，「文部科学省所管独立行政法人の業務実績評価に係る基本方針」にある考え方にに基づき定め，内容に関しては，交流の家の運営計画に基づき細分化を精査したものである。

また，事務局で提示させていただいた自己評価は，広報部会に所属する交流の家各職員が評価したものを取りまとめ，平均値をとったものである。

項目1「利用促進の方針に関すること」について説明。

○部会長

項目1について，質問，意見はないか。

□委員

質問，意見なし，了承。

○部会長

自己点検・評価表項目2「広報活動の方針に関すること」について，説明をしていただきたい。

●事務局

項目2について説明。

○部会長

項目2-1利用促進広報物作成に関する研修の実施について，今後の予定を聞きたい。

●事務局

3月に実施する予定ではあったが，職員の入れ替え等があるため4月以降の実施となる。講師については現在調整中である。

○部会長

項目3「広報活動の充実に関すること」について説明をいただきたい。

●事務局

項目3について説明。

○部会長

項目3-1のオリエンテーションDVDについて，今後の見直しの計画について聞かせていただきたい。

●事務局

次年度50周年の時期に講師棟の値上がり等があるため，それにあわせて見直しをかけていく。

□委員

「職員一芸選択プログラム」について詳しく聞きたい。

●事務局

職員それぞれが持っている得意な技をプログラムとして提供している。

○部会長

アンケートにおいて「満足」の割合が減少し「やや満足」が増えているのは、利用者からの要望などが増えてきたからなのか。

●事務局

利用者からの意見等は多く見られているのが現状としてある。

□委員

質問なし。

○部会長

事務局より「議題2平成28年度広報部会計画」について説明をいただきたい。

●事務局

まず、次年度以降も本部会は行っていくことになるが、実態に近い名前にするべく「広報部会」から「利用促進部会」に名称変更を考えている。また、平成28年度より第3中期目標・中期計画案があらたに本部より示され次年度はその1年目となる。平成28年度計画案をもとに次年度の利用促進部会の事務局案を提案させていただきたい。

【資料5】について説明。

○部会長

全体をとおり、質問、意見はあるか。

□委員

今後も北海道内の子供の数が減少していくため、長期的に今後の在り方についても考えていく必要がある。

○部会長

予定されていた議題は以上。

□委員

了承。

会議終了，閉会宣言